

順序構造分析による精神障害に 対する態度測定尺度(AMD尺度)の 項目間構造の検討

小平 朋江*・いとうたけひこ**

Inter-Item Structure Analysis of Attitudes toward Mental Disorder Scale by Order Structure Analysis

Tomoe KODAIRA and Takehiko ITO

Order Structure Analysis (OSA) can be used to analyze structure between items in psychological scales. The Social Distance Subscale (SDS) and the Image Subscale (IS) of Attitudes toward Mental Disorder Scale (AMDS), a well-utilized scale to investigate prejudice toward people with mental illness, were given to 126 students and analyzed by OSA to detect the inter-item structures. Results indicated the order structure corresponded to three situations in SDS and showed central core items in IS. The structure of AMDS was visualized as order maps. It is concluded that OSA is a strong tool to find out detect structural relationships between items in a scale.

key words: schizophrenia, structure, questionnaire, prejudice, order

問 題

東口・森河・中川(1997)によって作成された、精神障害(者)に対する態度についての測定尺度(以下、AMD尺度)は、当初24項目であったが、北岡(東口)(2001)以降では、20項目2因子の尺度として用いられてきている(北岡(東口)他2001abc; 北岡(東口)他2003; 小平他2007ab, 2009, 2010; 大高他2009; 大和田2010など)。信頼性と妥当性が高い尺度であるAMD尺度は、偏見の強さを測定するために、2因子の平均値が問題とされてきており、各因子のそれぞれの10項目間の関連については吟味されてこなかった。しかし、各因子の項目は精選されたものであり(北岡(東口)2001)、それぞれの項目間の関連を見る

ことは興味深い。

最近、戸田・酒井・やまだ(2009)は、「順序構造分析」という手法を編み出した。順序構造分析とは事象間の順序性を検討する手法である。項目数は2項目から、回答者数は数十名程度からと、比較的小規模のデータの分析に適しており、2値データだけでなく多値データにも適用が可能である。また、途中で枝分かれしたり再び合流するような複雑な順序構造も表現可能である。順序構造分析の手順は以下のとおりである。

①分析対象となる測定項目群から抽出することのできる、2項目のペアすべてについて、項目間に順序性が成り立っているかを判定する。順序性が成り立っている2項目を「ブロック」と呼ぶ。

②「ブロック」どうしの関係に着目することにより、「ブロック」がいくつか組み合わさってできているような、より複雑な順序構造(「ストラクチャ」と呼ぶ)を見いだす。

③最後に、見いだされたストラクチャと、実際のデータとの適合度を検討する。

大野(2010)は学生相談で扱う相談内容の各項目について、友人への相談と家族への相談と学生相談室の3者で相談しやすさの順次性があるかどうかを順序構造分析を使って検討した。また、北風・いとう・井上(2011)は、デートレイプの判断基準の項目の順序構造分析を行い、男女間の共通性と差異性を見いだしている。本研究では10項目からなるAMD尺度の2つの下位尺度に着目し、それらの項目間の関連が順序構造をどのように持つかを明らかにしたい。

目 的

本研究では、順序構造分析を用いてAMD尺度の2つの下位尺度の項目間の関係を可視化し、その連関構造を明らかにすることを目的とする。

方 法

戸田他(2009)の手順に従い、「2項目間に順序性がある」の2条件について、「差異条件」として t 検定によって得られた t 値の絶対値の大きさを採用し、「相関条件」については相関分析によって得られた相関係数の大きさを基準値とした順序構造分析を用いて、2つの下位尺度である「社会的距離尺度」と「イメージ尺度」の各々について項目間の順序性を判定した。今回は、社会的距離尺度とイメージ尺度の事前テストの順序構造を分析した。操作的定義として、 t 値の絶対値が2以上であり、かつ相関係数が.4以上であるという2条件を満たした項目間のペアに順序性があると規定した。

研究協力者 文系大学生42名と看護大学生84名の126名。

* 聖隷クリストファー大学看護学部看護学科
School of Nursing, Seirei Christopher University
e-mail: tomoe-k@seirei.ac.jp

** 和光大学現代人間学部心理教育学科
Department of Psychology and Education, Wako University
e-mail: take@wako.ac.jp

教材 統合失調症の母との暮らしを紹介したコミックエッセイである中村ユキ (2008)『わが家の母はジョーキです』(サンマーク出版)。

質問紙 事前・事後に共通して下位尺度として0～3の4択から構成される社会的距離尺度10項目と、イメージ尺度10項目である「精神障害に対する態度測定尺度」(AMD尺度：北岡, 2001)。

手続き 2009年10～11月の授業終了後にまず被験者に1回目の質問紙を実施した。その後、教材を手渡しして読んでくるようにお願いし、翌週2回目の質問紙を実施した。今回は事前テストを分析した。

倫理的配慮 第1著者の大学の倫理委員会の審査を経た。

結 果

Figure 1 は社会的距離尺度について、項目間の関係をパイプ図に準じた流れ図に表したものである。ラインの太さは相関の強さを表し、太さは3段階である。太い順に相関係数の値が、.6以上、.5以上 .6未満、.4以上 .5未満の3段階になっており、項目間の関連の強さを示している。また、各項目を表す円の左右の位置は0～3の範囲の値をとる回答の平均値を表している。円の位置の高低には統計的意味はない。社会的距離が大きい回答が多い項目ほど図の右方に位置する。○は個人的交友に関する項目、●は職場関係、灰色の丸は近隣のコミュニティに関連するというように、3つの領域が順序構造分析において示された。

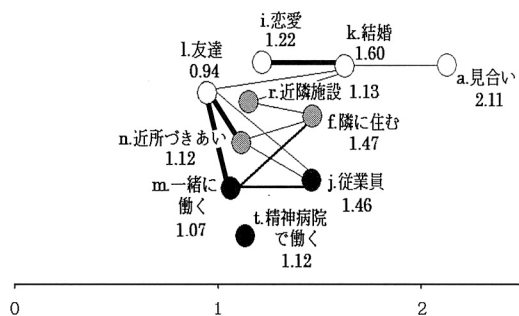


Figure 1 社会的距離尺度の順序構造分析の結果

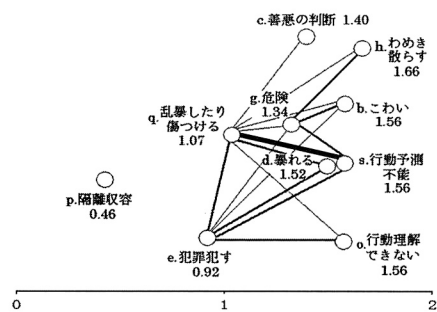


Figure 2 イメージ尺度の順序構造分析の結果

Figure 2 では、イメージ尺度について同様に順序構造分析の結果を図示した。統合失調症のイメージとして、隔離収容をすべきという意見はさすがに少ないものの、行動の理解や予測の難しさに恐怖感があるという学生が多いこと、また「乱暴をする」と「犯罪を犯しやすい」というイメージが、他の多くのイメージ項目とブロックを形成していた。

考 察

社会的距離尺度の分析では、統合失調症を持つ人々に対する多様な社会的距離の取り方があることを示唆している。見合いが結婚よりも抵抗感が強かったことは、見合いの歴史的変遷を踏まえて、尺度を再考する必要性が指摘されよう。

イメージ尺度では、「乱暴をする」と「犯罪を犯しやすい」というイメージが、他の多くのイメージ項目と結びついており、統合失調症を持つ人々に対する中核的なマイナスイメージであることが推測された。

順序構造分析では、心理学研究での因子分析に代表される要約的なアプローチとは違った、項目の個性性を重視した項目間の順序性に着眼した分析が可能である。医学や看護学では質問項目そのものと、項目間の関係を知りたいという場合も多い。本研究では、看護学などの実質科学的な現実性に根差した応用心理学的アプローチのツールとして、順序構造分析の可能性を明らかにすることができた。順序構造分析における「順序」は rank order の意味であり、たとえば順序尺度における「順序」の用法に該当する。発達や時間的順序や因果の順序の研究にも応用可能である。

※なお、本研究は、小平・いとう (2011) の調査における事前テストの項目の分析である。

主な引用文献

- 東口和代・森河裕子・中川秀昭 1997 精神障害(者)に対する態度についての測定尺度の作成：信頼性と妥当性の検討 心と社会, 89, 110-118.
- 北風菜穂子・いとうたけひこ・井上孝代 2011 順序構造分析によるデートレイブ判断の性差の検討 (投稿中)
- 北岡(東口)和代 2001 精神障害者への態度に及ぼす接触体験の効果 精神障害とリハビリテーション, 5(2), 142-147.
- 小平明江・いとうたけひこ 2011 マンガ教材 中村ユキ『わが家の母はジョーキです』読了後の統合失調症に対する偏見の変化 (未公開)
- 戸田有一・酒井恵子・やまだようこ 2009 心理学研究における順序構造分析の提案と課題 日本教育心理学会第51回総会発表論文集, 303.

(受稿：2010.9.3; 受理：2011.7.26)